

## 講演要旨

インターネットで検索するときと、そのときは覚えた気になるが、記憶にはあまり残っていない。『ノートのどこに書いたか』などメモした体験も一緒に記憶されるため、自分で書いて学習することが大切だ。情報過多な世の中なので、自分で考えるより先にネットで調べ、すぐに答えを求めてしまう。考える機会が減り、思考力や創造力が低下していく。示される答えも出所不明の情報を生成人工知能(AI)が加工しているときは短い文章が多く、相手の

インターネットで検索することと、そのときは覚えた気になるが、記憶にはあまり残っていない。

政府が推進しているデジタル教科書は、端末で完結してしまうため、メモを取る機会が少ない。(児童生徒の)メモを取る能力や文字を書く能力が衰え、学力低下につながりかねない。

抑揚や表情から行間を読めない。真意をつかめないまま拡散され、度々「炎上」してしまう。

生成AIや交流サイト(SNS)の使い方も考えなければならない。学生が、生成AIが作成した文章をコピーして学習を終わらせてしまうケースがある。だが、本来の学習は「自分は何を理解できて、何を理解できなかつたのか」までたどり着くことだ。SNSで

解決策はAIの規制と読書だ。人間が書いた書籍であれば著者の意見を尊重しながら自分の思考を深めることができ。子どもたちにとっては「自分にとって重要と感じたもの」を見つけられれば、それを礎に人間として成長していく。